

# 子育てサロンにおける交流を共想法により支援する手法

## Method to support exchanges in a child care salon through the Coimagination method

上田 哲也\*<sup>1</sup>  
Tetsuya Ueda

大武 美保子\*<sup>1,2</sup>  
Mihoko Otake

\*<sup>1</sup> 千葉大学 大学院 工学研究科  
Graduate School of Engineering, Chiba university

\*<sup>2</sup> ほのぼの研究所  
Fonobono Research Institute

The child care salon is organized by municipalities and some other organizations, which gives the opportunities for mothers with infants or small children to interact with each other. However it is difficult for some mothers to participant in the community of mothers. Therefore, among 12 participants in child care salon was Coimagination method conducted. This conversation method gives an opportunity for all of the participants to listen and talk within designated time. In this paper, we examined the conditions of theme and topics which are appropriate for prompting interactions by analyzing the conversations.

### 1. はじめに

近年、認知症予防手法として、大武らが提案した写真を使った会話手法である共想法[1,2]がある。共想法はテーマに沿って写真を持ち寄り、持参した写真について話し、他の参加者に写真と話について質問やコメントをしてもらうことで、聞くこと話すことのバランスが取れた会話を支援する手法である。共想法の主な対象は高齢者ではあるが、街歩き共想法[3]では、大学生も共想法に参加している[3]。このように、共想法は若年層も、コミュニケーション手法の一つとして取り組むことができる。

子育てサロンは、全国の自治体で子育てをする親の交流支援の場として設置され、参加者間での交流が生まれている[4]。しかし、子育てサロンの運営形態によっては、他の参加者となかなか交流できず、子育てのノウハウや悩みなど共有することができない場合がある[5]。

そこで本研究は、全員に参加の機会がある、共想法の特徴を生かし、他の子育てサロン参加者とうまく交流できない参加者でも、子育てに関する情報交換ができるように支援することが可能であるか確かめること目的としている。本稿では、子育てサロン参加者に共想法を実施し、その結果から、子育てサロンで有用な話題、写真について議論する。

### 2. 実験方法

#### 2.1 共想法

大武が開発した、共想法は本来、認知症予防を目的として開発された写真を用いる会話支援手法である[1]。手順を以下に示す。

- ① 実施者が持参する写真のテーマを参加者に伝える。
- ② 参加者はテーマに沿った写真を撮影し持参する。
- ③ Fig. 1 のようにスクリーンを前にして各参加者に席についてもらう。

④ Fig. 1 の1番の参加者から順に自分の写真について決められた時間内で自由に話す。以下、これを話題提供と呼ぶ。続いて2番の参加者、3番の参加者、4番の参加者と、各参加者の話題提供を一巡させる。

⑤ Fig. 1 の1番の参加者から順に写真について決められた時間内で他の参加者から質問、コメントなどをしてもらい、一番の参加者は質問などに答える。以下、これを質疑応答と呼ぶ。続いて2番の参加者、3番の参加者、4番の参加者と、各参加者の質疑応答を一巡させる。

この手順に従って、共想法を実施する。また発話の際にはマイクを使ってもらい、参加者の背後からビデオカメラで撮影した。

#### 2.2 対象者

N町の子育てサロン参加していた女性12名に共想法を実施した。共想法を実施するグループは無作為に1グループ4人ずつ、3つのグループに分けた(Aグループ、Bグループ、Cグループ)。参加者は「グループ、席順」で命名した。例えば、「B3」の場合、BグループのFig. 1でいう3番の席にいる参加者ということになる。



Fig. 1 共想法を実施する際の人、機材の配置図

### 2.3 共想法のテーマ・時間の設定

今回の共想法は、テーマ「好きなもの」、話題提供時間 30 秒、質疑応答時間 1 分 30 秒として実施する。

### 2.4 解析方法

ビデオカメラから得られた共想法の記録を元に、各参加者の発言の文字おこしを行い、文字おこしされた会話記録に対して形態素解析を行う。形態素解析には形態素解析エンジンに MeCab、参照する辞書ファイルとして国立国語研究所が開発した unidic を用いた。形態素解析の結果から品詞が「記号」に分類されなかったすべての単語の総数を発言単語量とした。また、発言が聞き取れなかった区間に関しては単語を 1 つ発言したと仮定し、数えている。

## 3. 実験結果

### 3.1 写真

参加者全員が「好きなもの」として、子供の写真もしくは、子供の好きなものの写真を持参した。各参加者が持参した写真に写っていたものを Table 1 に示す。12 名中 7 名の参加者が、子供が写っている写真を持参していた。

### 3.2 共想法実施結果（話題提供）

話題提供の内容としては、写真の説明や、撮影時のエピソードなどについて各々話していた。また参加者が話に詰まってしまった際には、話題提供の時間内であれば、司会が話の促進するような質問をした。

各参加者の話題提供の概要、発言単語量を Table 2 に示す。また実際の話提供の例として Fig.2 のリモコンの写真を持参した B1 の話題提供の様子を Table 3 に示す。

### 3.1 共想法実施結果（質疑応答）

各参加者の質疑応答中の発言から、内容が類似していた発言のうち複数回出てきたもの分類した。分類は、「同じ～系」（例：私の娘も遊んでいます）、「他に～系」（例：他に遊び道具はあるのですか）、「いたずら系」（例：意地悪したりしませんか）、「年齢系」（例：いくつですか）、「できない・しない系」（例：まだ小さいからできない）、他の発言を「その他」とした。分類した発言の回数を Table 4 に示す。この結果から、「同じ～系」の発言が特に多くみられることが分かった。また実際の質疑応答時の発言として、Fig.2 の B1 が持参した写真に対する発言を Table 5 に示す。同じ～系と他に～系の内容が含まれているのが分かる。

## 4. 考察

Table 1 より、子供の写っている写真を半数以上の参加者が持ってきていたため、多くの参加者が、普段の生活の中で子供の写真を撮っていると考えられる。このことから、生活の中で撮った子供の写真を扱うようなテーマにすることで、共想法に参加しやすくなると考えられる。

Table 2 から話題提供時の発言単語量の平均は 71.8 単語、標準偏差は 37.5 単語と平均と比べて標準偏差が 50%を超え、ばらつきが大きい結果となった。このことから、発言者が多く話す人とあまり話さない人がいることが伺える。また発言単語量が最も多い参加者 A3 と、3 番目に多い参加者 C3 は、離れた場所での体験であることから、遠隔地での出来事をテーマに話題提供をすると、情報量が多く話しやすくなるのではないかと考えられる。

Table 4 の結果より、他の参加者も同じような経験をしている内容で話題提供をしたり、写真に他の参加者も所有しているような物を入れたり、共通の話題にすることで、質疑応答時に他の参加者が、発言がしやすい話題、写真になると考えられる。

## 5. おわりに

共想法は本来、認知症予防を目的として主に高齢者を対象として実施しているが、他世代においても、コミュニケーション手法の一つとして、会話支援ができると考えられる。本研究では、子育てサロンの参加者に共想法を実施し、以下のような知見が得られた。

① 半数以上の参加者が生活の中で撮った子供の写真を持参してきたため、子育て世代が共想法に参加しやすいテーマは、生活の中で撮った子供の写真に関連したものであると考えられる。

② 遠隔地での出来事をテーマにすることで、話題の情報量が大きくなるため、話題提供がしやすくなると考えられる。

③ 同じもの、同じ出来事など、共通をキーワードに写真や話題を選択することで、他の参加者が質疑応答時に発言しやすくなると考えられる。

今後は今回得られた知見を踏まえて、子育てサロンで共想法を実施し、検証していく必要がある。

## 参考文献

- [1]Mihoko Otake, Motoichiro Kato, Toshihisa Takagi and Hajime Asama. The Coimagination Method and its Evaluation via the Conversation Interactivity Measuring Method, Early Detection and Rehabilitation
- [2]大武美保子, 介護に役立つ共想法—認知症の予防と回復のための新しいコミュニケーション, 中央法規 出版 (2012)
- [3]大武美保子, 会話におけるこころの時間の推定と街歩き共想法による記憶と近時記憶の支援, 人工知能, vol. 30, no. 6, pp. 745-750, (2015)
- [4]道岡里佳, et al. 地域における子育てサロンの有効性: 参加者と運営者へのアンケート調査を通して. 藍野学院紀要, 2004, 18: 89-94.
- [5]工藤遥. 都市の育児援助システムにおける「子育てサロン」の機能. 研究論集= Research Journal of Graduate Students of Letters, 2013, 13: 453 (左)-474 (左).



Fig.2 B1 が持参した写真

Table 1 参加者が持参した写真に写っていたもの

参加者	写真に写っていたもの
A1	子供, ブロック
A2	子供, 兄弟
A3	子供
A4	犬
B1	リモコン
B2	アンパンマンカー
B3	子供, 兄弟
B4	子供, ヨーグルト
C1	おもちゃのケータイ
C2	子供, 兄弟, 太鼓の達人
C3	子供, ウミガメ
C4	サラダ

Table 2 参加者が持参した写真, 話題提供の概要, 発言単語量一覧

参加者	話題提供内容	発言単語量
A1	ブロック遊び	30
A2	兄弟と一緒に写真	73
A3	新幹線に初めて乗った	158
A4	子供が好きな犬	63
B1	リモコンを食べる	33
B2	アンパンマンカーに乗る	97
B3	兄の面倒見が良い	77
B4	ヨーグルトを食べる	49
C1	おもちゃのケータイ	66
C2	弟が太鼓の達人をした	45
C3	ウミガメの放流に行った	87
C4	子供に作ったサラダ	66

Table 3 B1 の話題提供時の発言

発話者	スクリプト
B1	えっと, えっと, 子供がリモコンが好きで, いつも奪って, くわえて遊んでいます。ていうやつです。
司会	お子さんは, お一人?
B1	一人目です。
司会	リモコンは壊れたりは大丈夫ですか?
B1	ビッチョビッチョになるけれど, 壊れはしないですね。

Table 4 質疑応答時の分類した項目の発言回数

分類	回数
同じ~系	12
他に~系	3
いたずら系	3
年齢系	3
できない・しない系	4
その他	7

Table 5 B1 の質疑応答時の発言, 分類例

発話者	スクリプト	分類
B4	リモコン以外に (子供が) ハマっているものって何かありますか。	他に~系
B1	サンダルとか, 充電器とか。	—
一同	あー。	—
B3	リモコンだと, 後ろの中とか開けたりしないんですか。これ (子供) 開けるんですけど。開けたら電池とって, すぐばらばらにするんで, 危ないです。	同じ~系
B2	質問ではないんですけど, いや, こっちは, テーブルの上に置いていたりしてたんですけど, もう今そこに登れるようになったんで, 登って, リモコンとって, かじって。カバーはしているんですけど, カバーとかは?	同じ~系
B1	してないです。	—
B2	ちょっとは防げると思うんですけど。そんな感じです。	その他 (工夫)